

Iセット5過程方式

5年A漢字



指導の展開例

本授業実践の指導過程（案）

一般的な指導過程

配当時間の目安 15-20 分間

時間配分の目安

「Iセット5過程方式」による
新出A漢字のとりたて指導 略説

1-2
分間

I. (音) 読みかた

- 「ハッキン」(百均)を導入とする。

I. (音) 読みかた

- 体験との結合による興味づけ。
- 使用例から読みかたを確かめる。

2-3
分間

II. (義) 意味

- 「均一」の意味を考え、「均」の意味：基本義(ひとしい・ひとしくする)を導き出せるようにする。

II. (義) 意味

- 意味の手がかりは、訓、使いかた、実物、絵・写真・実演、成り立ちなどから。
- 主要な意味をとりあげる。

3-4
分間

III. (語イ) コトバあつめ

- 「均一」「均等」「平均」の意味を考える。

III. (形) 字形

- 字形の組み立て、似た字形に着目させる。
- 画と筆順を確認する

4-5
分間

IV. (形) 字体

- 字体を分析し、「土・かぎ・ン」を見いだせるようにする。
- 「土」が付く理由を考えて、**〈字体ストーリー〉**をつくるようにする。
- ★「均」の字体をしっかり観察し、意味と字体の関連を考えることで、より確実な字体の定着を図るねらいから、III・IVを入れかえている。

IV. 漢字語(熟語など)の学習(語イをふやす)

- およその意味や使い方がわかるコトバを集めさせる。
- 初めに意味ごとに数例の典型的な例文を示したり、口頭作文を発表させたりすると、文づくりのイメージをつくりやすい。

5-6
分間

V. 文づくりとその交流

- 「均一」「均等」「平均」の3つのうちから2つを選んで文をつくる。

V. 文づくりとその交流

- 文づくりに使うコトバは、なじみがある語だけにしぼる。
- 同じコトバを使った文を続けて発表させる。

いずれの過程でも、発表し、聞きあうことを重視して指導する。

授業実践例

2018年10月30日 火曜日 第1校時
東京都内公立小学校5年生32名の学級

板書例

授業記録

発言者 T…授業者 C…学習者／

板書 ○解説 △課題・反省・改善

1. 音（音読み）の指導

- T みなさん、「ハッキン」（100均）って行きます？
 C 「ダイソー！」「セリア！」（ロ々に）
 T 「ハッキン」，「ハッキン」っていうけど，手をあげて，何のこと？
 C 100円ショップ。
 T 100円ショップ。じゃあ，『きん』は何なの？
 C 「ハッキン」の『きん』。
 T 「ハッキン」の，『きん』は何なの？
 C お金。
 T お金の『きん（金）』か。もうちょっと違う言葉があるんだよね。
 C 全部の商品が100円にそろえてある。
 T うん，何かの略なんだよね。「100円なんとか」。
 C 「100円均一ショップ」。
 T そうだね。『100円均一』の略で，「100均」，「100均」って言っています。
 T 今日は，その「100均」の『均』，均一の『均』を勉強しますね。」板書1
 C なんだ，「100均」についてやるんじゃないかったのか。
 T 「100均には，何が売っているでしょう」とかね。
 C ハハハ。（笑）

- 体験との結合による興味づけ。
 ○授業の核心にひきこむようにする。

- 使用例から読みかたを確かめる。

板書1



- 「ハッキン＝百円均一」をおさえる。

2 義（意味）の指導

- T じゃあ、今、〇〇さんがほぼほぼ言っていましたけども、「100円ショップ」ってどんなお店？
- C 全部100円。
- T 全部商品が100円だよ。特別に高いのがありますが。
- T じゃあ、『均一』ってどういう意味だろう。
- C 「平等って感じ。」「そろえてる。」「全部同じ。」
- T ということは、この字（均）にはどういう意味があるんだろう。」
- C 同じ？
- T そうですね。 **板書2**

3 （語イ）コトバあつめ

- T 『イツ』ってどんな字だろう？「均一」の『イツ』って。
- C いち（一）。
- T こういう時は、『イチ』と読まず、『イツ』と読みます。

板書3

- T じゃあ、何を入れたい、ここ？
『商品のねだんを均一に・・・』
- C する。
- C しない。
- C そろえる。
- T そろえる。いいね。そろえる。あるいは、そろえない。

板書4

- T じゃあ、『均』のつく言葉、他にもあるかな。
- C 金属？
- C 『均等』。
- T 『均等』。『トウ』は何ていう字かな？
- C 等しい。
- T じゃあ、『均等』のほうは、どうやって使おうかねえ。
- C 「均等にたまごを分ける。」
- T 均等になんかを分けるのね。ケーキにでもしようか。

板書5

- C 『平均』。
- T 『ヘイキン』っていう言葉もあります。〇〇さん、なんていう字？
- T 〇〇くん、聞いてた？『ヘイキン』の『ヘイ』は何ていう字？せーの！
- C （みんなで）平ら。
- T 平ら。『平均』、これ、どうやって使うんだらう。
- C クラスの平均は・・・。
- C クラスの男子の身長の平均と、女子の・・・。

- 「百均」「均一」を導入に用いたことで、『均』の基本義（ひとしい・ひとしくする）を理解しやすくすることができている。
- 【均一】どれをとっても、金額・状態などが等しいこと。

板書2

○商品のねだんを均一にそろえる。
○意
ひとしい
ひとしくする

板書4

○商品のねだんを均一にそろえる。

板書3

○商品のねだんを均一に

- 【均等】数量・状態などに差をつけず等しくすること。

板書5

○ケーキを三人で均等に分ける。

- 聞く様子が欠けてきたと判断し、ここで別の子にふっている。

T 「平均身長。」 **板書6**
 C 「平均年れい。」「平均点。」「平均へんさち。」「平均金額。」
 T まだある？社会とかでもよく出てくる。グラフとか。
 C 「平均年収。」
 C 「温度。」
 T 「平均気温」とか。
 T **なんだろう？『平均』って。**
 C 全部足したもの÷数。
 T 算数でも勉強するよね。この意味「ひとしい」からすると、どういう意味だろう？
 C 「同じにする。」「等しくする。」
 T そうだね。等しくしたものだね。

板書6



○【平均】大小・多少の差が生じないこと。また、そのようにすること。

○ 「平均」は、算数での学習を経て理解を深める概念といえる。ここでの「平均の『均』」だけの理解だと不十分である。5年算数「D データの活用」で学ぶ「平均の意味」, 「測定した結果を平均する方法」を学習する直前のタイミングに新出漢字として学習することが望ましいと考え、本時で「均」を取り上げた。(授業者)

4. (形) 字体

T 今日は、課題を使った「覚えかたストーリー」を考えましょう。字の形を見てください、何が付いていますか？
 C 『句』のアレと、『土』と・・・。
 T これ(『勺』)は、あんまり書いたことがないけど。
 C 『句』とか。
 C 『句』。
 T 『句』とか、『句』はまだ習ってないけど。こういうときに書いた部分でできてる。中は？
 C ンー。 **板書7**
 T 『ン』が入っている。こっち(へん)は？
 C 土。



つつみがまえから構成される字

勺	包④, 均⑤, 旬⑥
勺	的④, 約④, 句⑤
勺	胸⑥

(○数字は配当学年)

T 今日の課題は、『土』に着目して、ちゃんと『平均』とか『均等』とか『均一』の意味に合うような、お話を作ってみて。

■個別に考える■

■発表■

C 思いついた。
 C 『袋に入れる土の量を平均にする。』
 C 意味わかんね。(笑)
 C 『土の量の平均は何グラムか。』
 C そしたら、右側(つくり)は？

板書7



- T なんで『土』が付いているんだと思う？
 C 平らにならず。
 T 平らにならず，どういうこと？
 C もりあがって，平らにするとか。
 T でこぼこして，山があったりするのを，ウィーン（ならす動作）と（黒板に絵を描いて）そうなんだよね。この（かぎ『ㇿ』），ここの部分は，ウィーン（腕を使ってならす動作）ってしてるのを表しているらしいんです。 **板書8**
 T このウィーンとして，このガタガタを？平らにする。
 （ならした絵を板書に描く） **板書9**
 T それを『ならす』というんだね。よく知ってるね。
 （『ならす』と板書）
 T では，その『土』を使って，この話を作ってみよう。
 C 土を均等にならず。 **板書10**
 T じゃあ，隣の人と話し合って，その後発表しよう。
 C 先生，右側も入れるんですか。
 T 右側も入ればなおいい。

■となり同士で話し合い■

■発表■

- C 『土のケーキを三人で均等に分ける。』
 C 『土の値段を均一にする』。
 C 『土の温度，』『土の偏差値を・・・』
 C 先生，『ン』を入れなきゃだめですか。
 T 入るなら入れて。
 C 『土を平均にならしたうえで，『ク』の中のカタカナの『ン』を読む。』
 C は？
 C めっちゃ無理やりやな。
 T 『土』が入っているの，頭に入れられたかな。
 T じゃあ，これさ『ン』だっていうのを忘れないようにしたいね。よく『約束』の『約』と似てるので，点にしちゃう人がまあまあいます。しばらくするとここを忘れちゃうんだよね。
 T どうかして，ここは『ン』だぞって覚える方法はないかな。
 C とにかく，『ンー，ンー』って言い続ける。
 C ええと，てんのうが，テ『ン』ノ・ウが…。
 C は？
 C ああ。
 C いいの，これで。
 C ケーキに土を入れる量を均等にし，それを食べた人の口が『ンー』となった。

板書8



板書9



板書10



T ははは。(笑)
 T じゃあ、一個紹介して終わるわ。自分で考えたんだけど。
 『平均点をとるな。』(『ン』部分を黄色チョークで書いた。)
 T ちょっと読んでみて。 板書II
 C 『平均点をとるな。』
 T この『ン』を取るな。これ取っちゃったら『平均点』じゃなくなる。
 C あ、これ、神!
 C 先生、昨日これ考えましたね。
 T 昨日じゃない、二週間ぐらい前。
 C うそだー。

板書II



5. 文づくりとその交流

T じゃあ文づくり行こう。今日は、『平均』か『均等』か『均一』で文を作ろう。

■個別に書く時間■
 (3分程度)

■発表■

T では、発表いこう。〇〇くん。
 C 「今回のテストの平均点は72.8点だった。」
 C 「百均で買い物しようと100円持ってったら、108円だった。」
 C ははは。
 C 税金を忘れる。
 C 「スイカを均等に切る。」
 C 「33人分のテストの平均点を出す。」
 C 「ケーキを均等に分けるのは難しい。」
 C 「ぼくのクラスにはスネ夫がいるから、5年生全員のおこづかいの平均は1万円だ。」
 C ふふふ。
 C スネ夫のせいだ。
 C 「5年口組の平均身長は、五千、あ、三千二百八十二センチだ。」
 T どんだけデカイの。
 C 「お父さんの平均金額は30円です。」
 C かわいそう。
 T え、こづかいのこと?かわいそう。
 T あとは、どうですか?
 C 「平均年れい1000年の木を切ろうとした。」
 T 木だったら、『樹齡』っていうね。平均樹齡。1000年の木を切る。そういうこともあるかも、では、終わりませう。

○「国字研プリント」に書く。

○文をつくることで記憶に結びついている。

○実質時間18分04秒

△(課題) 細かく指導計画を考えたので教師主導の部分が多く占めた。日々継続していくためには、このような指導をはさみつつも、児童の自由な発想も大事にする実践を主軸にしていきたい。(授業者)

国字研プリント

[] 月 [] 日 氏名 []

16 A
均
読み
キン

意味
●同じにする
●ならず

② () に読みがなを書き入れましょう。

① ぼくの身長は、五年生の平均よりも高い。

② ケーキを、三人で均等に分ける。

④ 「均」を使って文を作りましょう。



① 筆順に気をつけて書きましょう。

	均
	均
	均
	均
	均
	均
	均

(7画)

③ □ に漢字を書き入れましょう。

① テストの平均点は、八十点だった。

② 百円の品物がならんでい

★正しい字に○をつけましょう。

均	
均	
均	
均	

② []

① []

授業実践例の概要

2018年10月30日 火曜日 第1校時
東京都内公立小学校5年生32名の学級

1. 授業について

年度当初、字形を整えて書くことが課題となる児童が見受けられた。そこで、新出漢字の字体を観察して、その説明とその漢字の意味や使いかたと関連づけて〈字体ストーリー〉をつくるという活動に取り組んできた。その結果、〈字体ストーリー〉を自分で考えることを楽しんだり、自分なりの覚えかたの工夫をしたりするようになった。〈字体ストーリー〉をつくるには、漢字によって向き・不向きがある。あえて、不向きと思われる「均」に取り組んだ。(授業者)

2. この漢字の指導の最重点

- ① 「均」の基本的な意味「ひとしい」をもとに、「均一」「均等」「平均」などの漢字語の意味を理解したうえで、それらを使って文をつくることができる。
 - ② 〈字体ストーリー〉をつくる過程を通して、「均」の字体を観察し、意味と字体の関連を考えることで、より確実な字体の定着を図るようにする。
- * 〈字体ストーリー〉とは、ひとつの漢字の字体に着目し、構成要素に分解してつくった短文のこと。その漢字の基本的な意味、あるいは代表的な漢字語の意味とむすびつけることにより、すじにそった短文をつくる過程を重視する。単に、筆順を口でとなえて覚えるだけにとどめない。児童とは〈覚えかたストーリー〉と称してとりくんでいる。
- (例)【清】青い水が流れている清流を、見つける。
青い水で、心清らか。

3. 指導の工夫

- ① 児童に最も身近な言葉と思われる「百均(均一)」を導入に用いる。
- ② 100円均一の意味から、「均」の意味を類推できるようにする。
- ③ 「土」や「ン」の部分に着目して、字体と意味や言葉を関連付けられるようにする。

4. 予告と導入

この字をまなぶことを事前には予告せず、導入で「ヒャッキン」を話題にし、核心に引き込むようにした。そのうえで、「均」を学習することを提示した。

◎問いかけ例

- T「ヒャッキンを知っているかな？」
T「本当はどういう言葉だろうか？」—C「百円均一ショップ。」
T「どんなお店かな？」—C「商品が全部100円。」
T「今日は、その100均の『均』、均一の『均』を勉強します。」

5. 指導の順序

「均」の字体をしっかりと観察し、意味と字体の関連を考えることで、より確実な字体の定着を図ることを指導の最重点としている。そこで、「一般的な指導過程」の「Ⅲ（字形）→Ⅳ（漢字語の学習）」という指導順序を入れかえ、「漢字語の学習」を先に行い、意味を明確につかんだうえで〈字体ストーリー〉に取り組むようにしている。

6. 個別学習と集団での学習

区別とつながりを明確にして進めている。

7. 他者へのマナーと、授業のルール

なかまを認め合う学級づくりが基盤となっている。1セット5過程方式の学習の積み重ねが、その一翼をになっている。

読む時間、書く時間、話し合う時間が明確に区別されている。

8. 主発問例

* 「土」に着目して、ちゃんと「平均」とか「均等」とか「均一」の意味に合うような〈字体ストーリー〉をつくりましょう。

9. 文づくりに取り入れた語と、その人数

均一	1	百均	6	均等	14	平均	14
平均身長	2	平均年れい	3	平均点	13	平均気温	5
平均温度	1	平均体温	1	平均金額	2	平均台	0
均整	1	均分	0				

△（課題）「百均」のまま文を作った児童が多い。「百円均一」という言葉を学習したのだから、そのように使うように言葉かけをすれば良かった。（授業者）

10. 他教科との関連

5年算数「D データの活用」で学ぶ「平均の意味」、「測定した結果を平均する方法」を学習する直前にこの漢字を学習した。6年では「平均値」という語を学ぶ。

11. 教材

『国字研プリント』の「均」を印刷し配布。（本資料、P.7に掲載）
授業中、児童は、漢字辞典、漢字ドリル類、教科書等は使用しない。

12. 評価

- ① 「均」の基本的な意味「ひとしい」をもとに、「均一」「均等」「平均」などの漢字語の意味を理解したうえで、それらを使って文をつくることのできたか。
 - ② 〈字体ストーリー〉をつくる過程で、「均」の字体を観察し、意味と字体の関連を考えることで、より確実な字体の定着を図ることができたか。
- * 授業における形成的な評価、提出されたプリント、翌日の定着調査、翌週の小テスト、一か月半後の50問テスト。

定着調査（対象32人中32人）

(1) 指導日翌日の朝

問：きのう学習した「ひとしい・ひとしくする」という意味の漢字を使った文を一つ書きましょう。

◎完全正答 28人 (87.5%)

文づくりに取り入れた語と、その人数

均一	3	百均	1	均等	18	平均	1
平均身長	0	平均年れい	1	平均点	1	平均気温	1
平均温度	0	平均体温	0	平均金額	0	平均台	1
均整	0	均分	1				

◎助言で正答 4名 (12.5%)

内訳 ①「ン」の点が1つで「土+勺」としていた。3名

文中で「均一」「均等」「100均」を書こうとしていた。

助言「間違えないようにするための言葉覚えてる？（平均点をとるな）」→これで2名はピンときて「ン」とする。1名は少しかかって「ン」とした。

②無答 1名 — 「全然覚えてない。」

助言「君が昨日書いた文を読むよ。『これは…均等に分けられてないと思う。』『平均よりも下だ。』」

→ C「あ、こんな字だ。」と言って、指で『均』の字を宙書きしたので、思い出せたと判断し、紙を渡すと「平均」と書けた。

(2) 指導日翌週の小テスト（11月9日）

◎正答 30名 (93.7%)

文づくりに取り入れた語と、その人数

均一	4	百均	4	均等	10	平均	8
平均身長	0	平均年れい	0	平均点	3	平均気温	0
平均温度	0	平均体温	0	平均金額	0	平均台	1
均整	0	均分	0				

◎誤答 2名 (6.3%)

内訳 『均』の中の『ン』の点が一つになってしまった。

(3) 指導日から1月半後の50問テスト（12月11日）

問題…『へいきん』→『平均』

◎正答 30名 (93.7%)

◎誤答 2名 (6.3%) 『均』の中の『ン』の点が一つになってしまった。

※3つのテストにおいて同じ児童が誤答を繰り返すことはなかった。